

世界室内陸上で金4、銀3、銅1の日本勢

夏も近付く八十八夜は2日、翌3日が憲法記念日、次の日はみどりの日、さらにこどもの日と続いた皐月。勢よく鯉のぼりがはためく月だ。6日は立夏と暦の上では夏に入る日とあって、スポーツ界も活気づく。マスターズ陸上では3月下旬にポーランドのトルンで行われた2023年世界マスターズ室内陸上競技選手権に有志の人たちが参加し、金4、銀3、銅1を獲得する活躍をみせた。日本勢の躍動ぶりを紹介しよう。

写真／佐々木文夫さん

田中博男さん(92歳・青森)が M90・200mはじめ、 金2、銀1の活躍

3月26日の男子400mなどから4月1日のリレー種目まで、熱のこもった世界マスターズの室内陸上がポーランドのトルンで開催された。トルンは大学の街で、『天球の回転について』などの著がある天文学者のコペルニクスが生まれた街として知られた歴史のある所だ。

このような街で火ぶたを切った室内陸上。日本勢は男女30名超が参加して世界のマスターズの仲間と競い合った。日本人のまとめ役は岩手県滝沢市に住む佐々木文夫さん。かつてトルンで勤務した経験があり、ポーランド語ほか数か国語に精通しているとあって、チーム・マネージャー役で大忙しだったようだ。

先陣を切ったのは男子・走幅跳の人たち。M35では後藤厚人さん(大阪)が、6m83を跳び2位の表彰台へ。M45の望月善雄さん(北海道)と、M60の斎藤隆さん(神奈川)が9位と12位だった。

トラックでは60mに男女12人が出

場し、7人が入賞した。殊勲者は陸奥(青森)の国の至宝、田中博男さんと矢野昌幸さん(沖縄)だ。北と南の両人はM90の田中さんが10秒95の日本室内創設記録、M35の矢野さんは6秒88の同日本室内新で金メダルをゲットしたのだ。また、M50・譜久里武さん(沖縄)は7秒29の2位で惜しくも銀メダルだった。

このほか、M35・鈴木義啓さん(静岡)が7秒10、M70・新居田哲司さん(愛媛)は8秒70で6位に入った。女子ではW70の長崎ひな子さん(広島)が10秒28の4位、W85の桶谷美雪さん(富山)が17秒03の5位と健闘した。

200mはまたも田中さんだ。M90クラスで1周200mの狭いトラックを疾走、世界室内新となる38秒79でフィニッシュした！ 実に素晴らしい。

女子は60mで頑張った長崎さんがW70クラスで36秒78の4位。表彰台を逃したものの、60mと200mだけではない。400mも4位だったが、1分26秒64でいずれも日本室内マスターズ記録を彩るタイムばかりをたたき出した。おまけに最後の男女混成4×200mリレーでは3走を担当して優勝した。

この400mはM90・田中さんが1分42秒92と2位の成績。3種目を金2、銀1でポーランドの室内大会を終えた。田中さんが世界室内に参戦したのは2017年の大邱、19年のトルン両大会に次いで3回目だが「今回も非常に楽しかった。体調は良かったのか、悪かったのか。今回は十分に練習した訳

でもなく、特に400mは全くの練習なしで、恥をさらしてもいいから走ったまで」と92歳の弁。

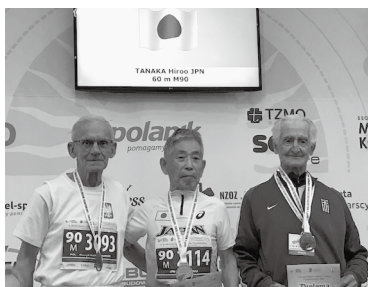
田中さんは「今年の目標は特にありませんが、11月にフィリピンで予定されているアジアのマスターズ大会には出たいと思っています。種目はまた恥かきですが400mと100、200m」と話す。この後「3年後には95歳になるので、M95で記録を狙いたい」と元氣そのもの。

女子W70の玉田ゆみ子さん(宮崎)、 5種目入賞の健闘

M35の60mで6位だった鈴木さんは、三段跳では14m62と3位の座に。同じく三段跳では女子のW70クラスの玉田ゆみ子さん(宮崎)が6m71で4位になった。玉田さんはほかにW70・60mHは14秒42、棒高跳は1m50、五種競技は1992点をマークし、個人種目はいずれも4位だったが、男女混合4×200mRに2走で出場、男子の1走・新居田さん、3走に長崎さん、アンカーの佐々木さんとで2分20秒09と金に輝いた。

それにしても玉田さんのタフさには恐れ入る。マネージャー役の佐々木さんは「リレーは長崎さんまで3位で、私のところでポーランドとドイツを抜いてトップになったのですが、優勝できてよかった。多種目で頑張った玉田さんはじめ、4人の力を結集しての勝利です」と。

リレーを除き4位の数が多かった玉田さんだが、ほかの4位の人たちは800mのM35の高見聡さん(東京)で



M90の60m(写真)と200mで、優勝した田中博男さん(中央)

1分56秒80。三段跳・M35で走幅跳2位だった後藤さんが14m50を跳んだ。いずれも3位の表彰台までに、もう一息だった。

「ああ、楽しかった」

そう振り返るのは8kmクロスカントリーのW35に出場した中村友梨香さん(兵庫)。中村さんは兵庫・西宮市の県立西宮高から天満屋に進み、社会人になってから2008年北京五輪のマラソンに出場。13位となったが、日本女性では唯一の完走者だった。

今回の室内大会へは「室内大会でクロカンなんて面白そう」と思って参加した。レースは3月27日にあったが、レース中は「雨に降られたり、あられがバラついたり。寒くて大変でした」と言い、室内のトラックを走った後、屋外へ出たが、激しいコースだったとか。45分25秒の14位だったが「楽しかった、の一言でした」と笑顔だった。

中村さんのほか、入賞には届かなかったが800m・W55の予選で2分41



M70・男女4×200m リレーで見事優勝。左から新居田哲司さん、玉田ゆみ子さん、長崎ひな子さん、佐々木文夫さん

秒26、1500mは5分24秒25で7位と両種目に創設の日本室内新を出したのが今泉愛子さん(茨城)だ。今泉さんは旧姓・石原。兵庫県出身で県内の中・高校時代は全国レベルで活躍した。

最後に補佐役を兼ねた佐々木さんは「勝つべき人が勝って、入賞しました。入賞しなかった人たちもベストを出して頑張り、“楽しかった”の思いを口にしていて、よかった」と総括した。

2023年世界マスターズ室内陸上競技選手権大会決勝成績

〔男子〕

種目	クラス	順位	記録	選手名
60m	M35	1位	6秒88	矢野 昌幸(沖縄)
60m	M35	6位	7秒10	鈴木 義啓(静岡)
60m	M50	2位	7秒29	譜久里 武(沖縄)
60m	M70	6位	8秒70	新居田哲司(愛媛)
60m	M90	1位	10秒95	田中 博男(青森)
200m	M90	1位	38秒79	田中 博男(青森)
400m	M90	2位	1分42秒92	田中 博男(青森)
800m	M35	4位	1分56秒80	高見 聡(東京)
1500m	M70	9位	6分13秒61	清水 利恭(東京)
60mH	M45	5位	8秒94	望月 善雄(北海道)
60mH	M50	7位	8秒95	田中 清貴(静岡)
棒高跳	M70	7位	2m60	原沢 勲(埼玉)
走幅跳	M35	2位	6m83	後藤 厚人(大阪)
走幅跳	M45	9位	5m79	善雄(北海道)
走幅跳	M60	12位	4m93	斎藤 隆(神奈川)
三段跳	M35	3位	14m62	鈴木 義啓(静岡)
三段跳	M35	4位	14m50	後藤 厚人(大阪)
三段跳	M45	7位	11m59	望月 善雄(北海道)
砲丸投	M45	13位	8m95	望月 善雄(北海道)
重量投	M40	11位	4m45	中林 正憲(大阪)
五種競技	M35	7位	3130	平松 忠浩(東京)
五種競技	M35	14位	2269	三原 康志(千葉)
五種競技	M40	17位	1979	中林 正憲(大阪)
五種競技	M45	7位	3253	望月 善雄(北海道)
五種競技	M45	9位	2972	水戸 宏(静岡)
五種競技	M50	7位	3513	田中 清貴(静岡)
五種競技	M70	6位	3070	原沢 勲(埼玉)

〔女子〕

種目	クラス	順位	記録	選手名
60m	W70	4位	10秒28	長崎ひな子(広島)
60m	W85	5位	17秒03	桶谷 美雪(富山)
200m	W70	4位	36秒78	長崎ひな子(広島)
400m	W70	4位	1分26秒64	長崎ひな子(広島)
1500m	W55	7位	5分24秒25	今泉 愛子(茨城)
60mH	W70	4位	14秒42	玉田ゆみ子(宮崎)
棒高跳	W70	4位	1m50	玉田ゆみ子(宮崎)
三段跳	W70	4位	6m71	玉田ゆみ子(宮崎)
砲丸投	W60	22位	5m44	島田 美樹(長野)
五種競技	W40	10位	2656	高畑 志野(長野)
五種競技	W70	4位	1992	玉田ゆみ子(宮崎)
8kmクロカン	W35	14位	45分25秒	中村友梨香(兵庫)

〔リレー〕

種目	クラス	チーム名	順位	記録
男子4×200m	M70	日本	6位	2分19秒66
男女4×200m	M70	日本	1位	2分20秒09

クラス別室内創設日本記録および室内日本新記録の印ははぶく。

M90・200mの田中博男さんの記録は世界室内新